

巻 頭 言

スーパーサイエンスハイスクール 2 期目 2 年目の終わりに

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校 校長 川村 始子

本校は、平成 26 年度に文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受け、本年度は 2 期目 2 年目となりました。テーマは、「『問う力』を共通指針とした『たくましい科学系人材』を育成する教育手法の開発」です。令和 4 年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領改訂の基本的な考え方で重視されている「社会に開かれた教育課程」に先行するものであり、変化の中に生きる社会的存在として自分の資質能力を高め、多様な人と協働し諸問題の解決を目指していく生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を目指します。対象は全日制普通科の全学年・全生徒を対象とし、更には本年度開校の附属中学校にも波及させようとするものです。

本年度の研究を推進させるために学校経営方針の中で、「問う力」をテーマとした授業の構築を挙げ、先生方には各教科で育む「問う力」のコンピテンシー（資質・能力）の中で、どの項目を伸ばすのか宣言し、1 時間の授業を展開して頂きました。その授業は管理職の授業観察と先生方の互見の機会とし、他教科の先生方を含めて公開としました。その後授業の振り返りの中では、生徒の資質・能力伸長のための方策検討を致しました。また、授業観察期間終了後には、各教科で「問う力」伸長のための話し合いを重点的にして頂き、教科においての方向性を確認することができました。また校内研修として、先生方から探究指導にあたってのコツやポイントについて発表を頂き、全職員で共有することが出来ました。

本年度から始まった 2 年生文系の SDGs の研究は、校種を越えて、同じく本年度から SDGs の研究を始めた下根中とのコラボレーションとし、オンラインではありますが、お互いの研究発表の場としました。さらに研究への助言指導に関しては、長く御支援頂いた筑波大に加えて、本年度から茨城大学や他の大学の御支援を受け、焦点化されたテーマ設定になりました。

本年度はコロナ禍のため、関連団体の企画も中止になったものが多く生徒の活動は制限されてしまいましたが、本校では「生徒の研究や探究活動を止めない」を合い言葉に、主要な行事である 7 月や 2 月の生徒研究発表会、全校講演会、サイエンスツアーは実施致しました。また、2 年生と附属中生のフィールドワークも同様で、生徒たちはオリジナルデータをとり、探究活動を進めています。また小学生に好評の「おもしろ実験フェス」はオンラインで、「レインボー国際交流」も zoom でインド・モンゴルの高校生と 1 年生 24 名が情報交換をしました。今後もさらに ICT 環境を整備し、生徒のアウトプットの可能性を探っていきたいと思っております。

最後になりましたが、諸活動を進めるにあたり、科学技術振興機構、県教育委員会、関係大学・市町村立小中学校、さらに筑波大学の吉瀬章子教授を委員長とする運営指導委員会の皆様をはじめとして、実に多くの方々のご理解とご協力を頂きました。改めて深く感謝申し上げます。

今後も本校は、SSH の研究や探究活動を教育の柱として「問う力」の育成を通して、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となれるよう努力してまいります。